

2025 年 10 月 15 日

2024 年度のスチール缶リサイクル率は94.4%

- 2011 年度以降 14 年連続で 90%以上を達成しました。
- 2021 年度から始まり 2025 年度を目標年度とする自主行動計画 2025 のリサイクルの数値目標「93%以上維持」を達成しました。
- スチール缶リサイクルは、何にでも何度でもさまざまな鉄鋼製品に生まれ変わるクローズドループリサイクルです。
オープンループリサイクル(熱回収・カスケードリサイクル)と比して、より天然資源の新規投入量や廃棄物の削減に貢献しています。

● 国内での資源循環システムが確立している、スチール缶のリサイクル

- 飲料用スチール缶の分別・再資源化が社会に浸透しており、97%以上(※)の自治体で分別収集の対象になっています。 ※全国 815 市区の調査結果
- スチール缶スクラップは、高品質のスクラップとして高い評価を受け、全国の鉄鋼メーカーで安定的に使用されています。
- 国内で発生するスチール缶スクラップは、その殆どが国内で製鉄原料として再資源化されており、輸出に回っているものは基本的にありません。

● 高付加価値化・高品質化が進展している、スチール缶のリサイクル

- スチール缶の一部が、全国の鉄スクラップ取扱事業者において高付加価値化のためシュレッター処理され、スチール缶スクラップ(Cプレス・Cシュレッター)以外の規格で鉄鋼メーカーに受け入れられていることから、2009 年度より、この一部を調査して再資源化重量に加えています。

● カーボンニュートラルに向けて果たすスチール缶リサイクルの役割

- 2024 年度のスチール缶再資源化量は約 276 千トンでした。
1トンの鉄スクラップをリサイクルすることによって、1.28トンの二酸化炭素排出削減(※)につながります。
- 2024 年度のスチール缶のリサイクルによって、約 353 千トンの二酸化炭素排出削減に寄与しています。

※(一社)日本鉄リサイクル工業会 HP より

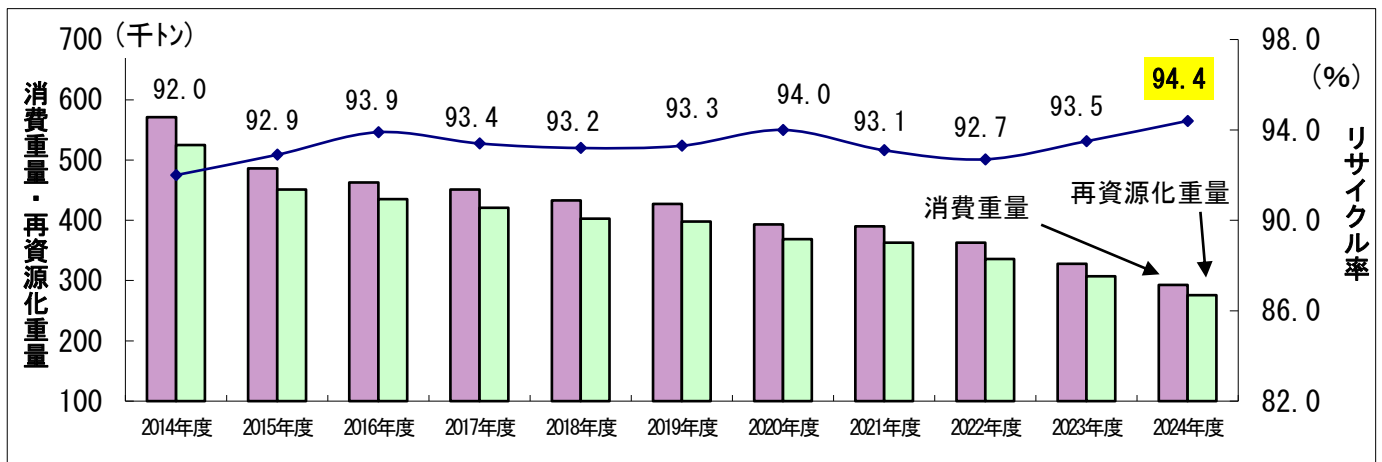
.....
<本件に関するお問い合わせ先>

スチール缶リサイクル協会 担当: 事務局 外蘭(ほかぞの)

電話:03-5577-2241 FAX:03-5577-2242

E-mail アドレス:recycle@steelcan.jp

スチール缶消費重量 292,822 トンに対して再資源化重量 276,396 トンでした。



	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
消費重量(千トン)	571	486	463	451	433	427	393	390	363	328	293
再資源化重量(千トン)	525	451	435	422	403	398	369	363	336	307	276
リサイクル率(%)	92.0	92.9	93.9	93.4	93.2	93.3	94.0	93.1	92.7	93.5	94.4

スチール缶リサイクル率の算出方法

スチール缶が販売されてから回収再利用されるまで 3 ヶ月かかると見なして、消費重量は 2024 年 1～12 月、回収・再資源化重量は 2024 年 4 月～2025 年 3 月のデータにより算出しました。

$$\frac{\text{再資源化重量}}{\text{消費重量}} = 94.4\%$$

$$\text{消費重量} = \text{空缶出荷量} - \text{缶詰輸出量} + \text{缶詰輸入量} + \text{空缶輸入量}$$

$$\text{再資源化重量} = \text{鉄鋼メーカー等購入量} - (\text{アルミ蓋重量} + \text{異物})$$

全国の電炉メーカー・高炉メーカー・鋳物メーカー・ペレットメーカー等にスチール缶スクラップ(Cプレス及びCシュレッダー)利用量に関するアンケート調査を実施、その回答を集計。

これに、全国の鉄スクラップ取扱事業者において、スチール缶スクラップがシュレッダーなど処理された後、スチール缶以外の規格で再資源化し、製鋼原料として売却された重量を集計(調査により把握できた量のみ計上)。

上記集計値からスチール缶スクラップに含まれている飲料缶用アルミ蓋の重量及び水分等の異物を除いて算出。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

スチール缶リサイクル協会 担当：事務局 外蘭(ほかぞの)

電話：03-5577-2241 FAX:03-5577-2242

E-mail アドレス: recycle@steelcan.jp